

## プロフェッショナルとしてのスキルはコンピュータをも動かす

久富 洋子

アイネットシステムズ株式会社 医療情報システム企画グループ

愛知会場専門課程（分類法）講師

分類小委員会委員

日々新聞を広げると、IT という文字を見ない日はない。日常生活のなかに溢れている IT 技術のおかげで、公私ともに便利になった。しかしながら、たしかにコンピュータは便利な道具ではあるが、処理手順を教え込まなければ、何もできないただの箱である。ただの箱であるコンピュータにいろいろなことをやらせるための手順を教え込むのがソフトウェア開発であり、コンピュータはソフトウェアで定められた手順通りに動いているだけなのである。では、その手順は、誰がつくるのであろうか。

20年ほど昔、レセコン（医事システム）を作っていたころを思い返してみると、当時の医事課には、薬価や診療行為点数、算定ルールもすべて頭に入っていて、すぐに点数計算ができる専門家が多くいた。システムがソフトウェア不備のために間違った答えをだした時など、「あれ、おかしい。ここが、こう間違っていて、こうなるのが正解、ここに書いてあるでしょ。」との指摘を、根拠とともに技術者に示したものである。専門書や告示通知などの資料、さらに貴重な指摘や現場の意見（ノウハウ）を、コンピュータに手順として覚えこませるのが技術者、SE（システムエンジニア）の仕事である。しかし、ここで重要なことは、SE は手順をコンピュータに教え込ませはするが、その手順は、現場の専門家が長年にわたり培ってきた技能や技術に基づくものである。すなわち、専門知識が根底にあるということが前提になっているのである。

今、通信教育を受講している諸氏は、診療情報管理に関する専門知識を学んでいる。併せて、学習に IT を利用している人も多いと思う。いずれにしても、通信教育を経て実務につく人、すでに実務についている人も、現場では IT を利用して効率的な業務の遂行を求められるであろう。IT を利用する時、ただ便利だから利用するのか、結果の正誤の判断が出来る深い知識をもって利用するのか、その違いが素人と玄人の違いである。病名を入れると ICD-10 コードの検索ができるツールがある。簡便に調べるには大変便利なものである。このような効率化ツールを否定するものではないが、やはり専門家としては、ICD-10 の構造や仕組み、ルール、粒度の違い、さらには付随する問題点などを十分に理解し、ツールが出した結果に対して、適正な評価を行い、その結果が正しい結果であるのか判断し、必要があれば修正を加えることができるだけのスキルを持たなければならない。今、必要なことは、専門的プロフェッショナルとしての十分なスキルを持つこと、そして、いざという時には、冒頭に述べたように、コンピュータに手順を教えることのできる、診療情報管理の専門知識を持った診療情報管理士になっていただきたいと強く願っている。